

転落防護のヘルメット 荷役作業の 身だしなみ

陸災防「平成 29 年度 安全衛生標語」荷役部門 入選作品



平成 29 年 7 月 No.576

発行所 陸上貨物運送事業労働災害防止協会
〒108-0014 東京都港区芝 5 丁目 35 番 2 号
安全衛生総合会館内 ☎03-3455-3857 代表
<http://www.rikusai.or.jp>
(印刷物による年間購読料 3,600 円)

みんなで築く安全職場 総力挙げて目標達成 12 次防

陸災防「第 12 次陸上貨物運送事業労働災害防止計画目標達成取組強化期間」（7 月～12 月）スローガン

- | | |
|--|--|
| ○ 近年のフォークリフトによる災害発生の特徴と問題点 …………… (1)～(3) | ○ 第12次陸運業労災防止計画目標達成取組強化期間を実施中！ …………… (5) |
| ○ 新しいポスターで保護帽着用の徹底を！ …… (3) | ○ ロールバックシート安全作業研修会のご案内 …… (6) |
| ○ フォークリフト荷役技能検定のご案内 …… (4)～(5) | ○ 過労死等防止対策セミナーのご案内 …… (7) |
| ○ 「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」実施中！ …………… (5) | ○ 小企業無災害記録表彰 …………… (8) |
| | ○ 労働災害発生状況 …………… (8) |

【平成 26 年～28 年】

近年のフォークリフトによる災害発生の特徴と問題点

安全管理士 堀野 弘志

フォークリフトによる過去 3 年の事故の型別・業種別死亡災害発生状況（平成26年～28年）

業 種 事故の型	年 齢 区 分	製造業			建設業			陸運業			港湾荷役業			商業			その他			計			3年 合計	
		平成			平成			平成			平成			平成			平成			平成				
		26	27	28	26	27	28	26	27	28	26	27	28	26	27	28	26	27	28	26	27	28		
墜落・転落	50歳以上	1		1			2	3	1	3							1	2	4	2	8	14	21	
	50歳未満			1	1	1			1					1		1	1	1	3	3	7	7		
転倒	50歳以上	1		1						1									1	0	2	3	11	
	50歳未満	1	3				1							1		2		1	5	2	8	8		
激突	50歳以上	1												1					1	1	0	2	3	
	50歳未満														1				0	0	1	1		
飛来・落下	50歳以上	1				1											1		1	2	0	3	4	
	50歳未満			1															0	0	1	1		
崩壊・倒壊	50歳以上								1								1		1	1	0	2	2	
	50歳未満																		0	0	0	0		
激突され	50歳以上	4	3	2				2									1	1	7	3	3	13	17	
	50歳未満		0					2						1			1		4	0	0	4		
はさまれ・ 巻き込まれ	50歳以上	2	1				1	2	1	2		1		1				1	5	3	4	12	19	
	50歳未満	1	1			1				1	1			1				1	3	3	7	7		
交通事故	50歳以上																		0	0	0	0	2	
	50歳未満														1		1		0	1	1	2		
合計	50歳以上	10	4	4	0	1	3	7	3	6	0	1	0	1	1	0	2	2	20	12	17	49	79	
	50歳未満	2	4	2	1	2	1	2	1	1	0	1	1	1	0	5	1	4	7	12	11	30		
		12	8	6	1	3	4	9	4	7	0	2	1	2	1	5	3	6	27	24	28	79		
3年合計		26			8			20			3			8			14			79				

(資料：厚生労働省安全衛生部)

1 はじめに

平成 28 年の労働災害による死亡者数のうちフォークリフトに起因する死亡者数は 28 人で、前年の 24 人から 4 人の増加となりました。

中でも陸運業は、前年の 4 人から 7 人に大幅な増加となりました。

また、50 歳以上の被災者の割合が 60%と前年の 50%から増加しています。

2 近年の死亡災害の特徴（全産業）

過去 3 年間におけるフォークリフトに起因する死亡者数は、平成 26 年 27 人、平成 27 年 24 人、平成 28 年 28 人と増減をくりかえしています。

業種別には過去 3 年間の合計で見ると、製造業が最多の 26 人（33%）で最も多く、陸運業が 20 人（25%）で 2 番目ですが、平成 28 年は陸運業が最多の 7 人となっています。

事故の型別では、「墜落・転落」によるものが 21 人（27%）と最も多く、「はさまれ・巻き込まれ」が 19 人（24%）、「激突され」が 17 人（22%）、「転倒」11 人（14%）の順となっています。

3 平成 28 年死亡災害の事故の型別問題点（全産業 28 人）

① 墜落・転落（11 人）

前年までの 5 件から 11 件に大幅に増加した。また、50 歳以上の高年齢労働者の被災が 8 件と激増した。

11 件中 6 件はフォークリフトの爪の上やパレットの上に被災者を乗せ上昇させるいわゆる用途外使用による高所作業中に墜落・転落したもので、オータピーキングトラックからの墜落も 2 件あった。

その他は運転操作ミスが原因でフォークリフトとともにプラットホームからあるいは道路下の池などに落下したものが 3 件となっている。

② はさまれ・巻き込まれ（7 人）

7 件中 2 件は爪やマストに登って作業を行い、誤ってティルトレバーに足が触れマストとヘッドガードの間にはさまれたもの。リーチフォークやラックフォークで後進中に運転操作ミスで自らを挟んでしまったものが 2 件。走行中に通行者に気づかず接触した、同じくはさんでしまったものが 2 件。さらに停車したフォークリフトが動き出しフォークリフトとトラックにはさまれたものが 1 件（逸走）。

③ 転倒（4 人）

4 件ともにフォークリフトが横転し、運転者が投げ出され、フォークリフトの下敷きになったもの。

横転の原因は、

- ㊦ 下りこう配(約 11 度)の通路を前進でしかもスピードを出しすぎたことからバランスを崩して横転した。
- ㊧ フォークリフトを移送トラックに積み込む際、フォークを高く上げた状態で後進で道板を登っていたがバランスを崩して転落した。
- ㊨ 砂利道で立ち往生したフォークリフトをトラックで牽引している際に転倒した。
- ㊩ フレコンをつり上げトラックに積み込んだが、爪が外れる前にトラックが前進したため引っ張られ転倒した。

④ 激突され（3 人）

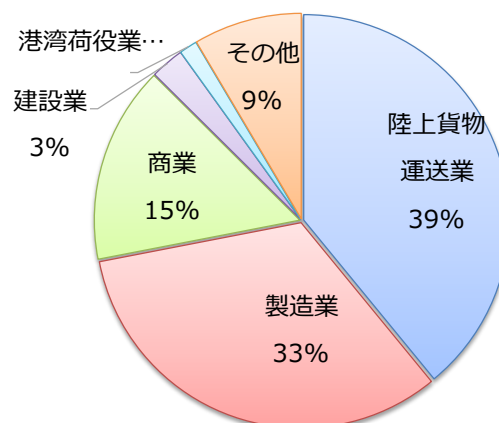
3 人ともに 50 歳以上の高年齢労働者で、フォークリフトの走行経路上に立ち入ったもの、大型フォークリフト（13.5 トン）をバック走行中に後方不注意により轢いたもの、長物（12 m の H 鋼）を揺れて落ちないように手を添えながら移動していた被災者が落下した H 鋼の下敷きとなったもの。

4 近年のフォークリフト起因の死傷災害

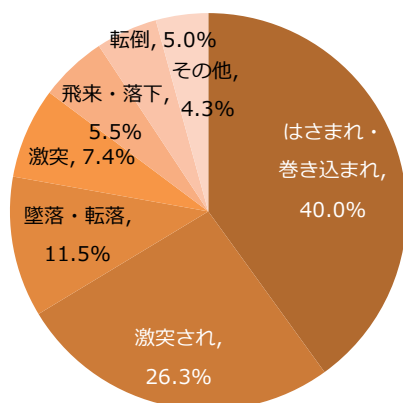
過去 3 年間におけるフォークリフトに起因する死傷者数は、平成 26 年 1,898 人、平成 27 年 1,890 人、平成 28 年 1,977 人と増減をくりかえしています。

業種別では、過去 3 年間の合計で見ると、陸運業が 39% で最も多く、製造業 33%、商業 15% となっています（図 1）。

図 1 業種別フォークリフト死傷災害の割合（H26～H28）



事故の型別では、はさまれ・巻き込まれが 40%、激突されが 26% でフォークリフトと人の接触つまり「轢かれ」が最も多くなっています（図 2）。

図2 事故の型別フォークリフト死傷災害
(H26～H28)

5 フォークリフト安全作業のポイント

- ① 進行方向（前後左右）への安全確認
- ② フォークリフトから身を乗り出さないこと
- ③ 横転注意：荷の高さを低く、走行はゆっくり、旋回は微速で慎重に、傾斜通路ではハンドルを切らない、シートベルトを着用して投げ出されないようにすること
- ④ 用途外使用（人の昇降、牽引、吊上げ）禁止
- ⑤ フォークリフトの走行経路への立ち入り制限

【新しいポスターのご案内（7月中旬より頒布開始）】

ヘルメット着用を促すためにご活用ください

陸運業における平成 25 年の荷役作業時の死亡災害の中で最も多かったのが「トラック・荷台等からの墜落・転落」です。この災害事例を分析すると、67%が「保護帽（ヘルメット）未着用」でした。そのうちの多くが「高さが 2m 未満」の地点からの転落であり、もし保護帽を着用していれば死亡災害に至らなかった可能性があります。

わずか 50cm の高さから転落した場合でも、打ちどころによっては死亡災害に至ってしまうことがあります。高さ 2m に満たない地点での作業であっても、荷役作業時には保護帽着用を徹底してください。

陸災防では、安全衛生標語入選作品「転落防護のヘルメット 荷役作業の身だしなみ」をテーマとし、保護帽（ヘルメット）着用徹底を訴えたポスターを頒布いたします。このポスターを掲示し、墜落・転落による死亡災害防止にご活用ください。

（引用資料：陸上貨物運送事業における重大な労働災害を防ぐためには）

安全ポスター No.72 申込書

安全ポスター No. 72
価格：206 円（税込）

申込年月日		年	月	日	曜日
申込者名（請求先）					
申込担当者名		☎ FAX			
送 付 先	名称				
	所在地 及び 担当者名	〒 ☎			
品名	安全ポスター No.72				
数量					
お支払方法	☐ 前払い ☐ 代金引換				
通信欄 請求先等が異なる 場合の住所等					

空欄に必要事項をご記入いただき、下記番号へFAXにてお申込みください。

FAX 03-3453-7561

お支払方法は、前払い又は代金引換とさせていただきます。

平成 29 年 10 月 18 日実施（8 月 1 日受付開始）

フォークリフト荷役技能検定のご案内



陸上貨物運送事業労働災害防止協会（陸災防）では、平成 29 年 10 月 18 日(水)、フォークリフト荷役技能検定試験を実施します。

この技能検定は、フォークリフト運転技能講習修了者等を対象に、より安全で正確かつ迅速な作業を評価・認定し、労働災害の防止に寄与することを目的とした制度です。

多数のフォークリフト運転者の皆さまのご参加をお待ちしています。

技能の程度について

- 1 級 フォークリフト運転技能講習修了後 5 年程度のフォークリフトによる荷役作業の実務経験を有する上級のフォークリフト運転者
- 2 級 フォークリフト運転技能講習修了後 3 年程度のフォークリフトによる荷役作業の実務経験を有する中級のフォークリフト運転者

受検資格

- 1 級 フォークリフト荷役技能検定 2 級合格後 2 年以上の実務経験を有する者等（注 1）
（注 1）平成 27 年度実施のフォークリフト荷役技能検定 2 級試験合格者及びフォークリフト認定 1 級制度実技試験合格者が対象となります。
フォークリフト認定 1 級制度実技試験合格者は、学科試験のみ受検できます。
- 2 級 フォークリフト運転技能講習修了後 2 年以上の実務経験を有する者（注 2）
（注 2）平成 27 年度及び 28 年度実施のフォークリフト荷役技能検定 2 級試験一部合格者は、不合格となっている科目（学科又は実技）を受検できます。

検定日

検定日 平成 29 年 10 月 18 日（水）

受検申請期間

平成 29 年 8 月 1 日(火)～10 月 11 日（水） 締切日消印有効

受検会場



受検地	1 級	2 級	会場	会場住所
北海道	学科	学科・実技	スミセキ・コンテック (株)	北広島市 北の里 57-2
岩手	学科	学科・実技	岩手県トラック協会総合研修館	紫波郡矢巾町流通センター南 2-9-1
宮城	学科	学科・実技	宮城県トラック研修センター	仙台市若林区卸町 5-8-3
秋田	学科	学科・実技	秋田県トラック協会研修センター	秋田市寺内蛭根 1-15-20
福島	学科	学科・実技	福島県トラック研修センター	福島市飯坂町平野字若狭小屋32
埼玉	学科・実技	学科・実技	埼玉県トラック総合教育センター	深谷市黒田 2091-1
千葉	学科	学科・実技	千葉県トラック協会習志野研修所	習志野市茜浜1-10-2
東京	学科		安全衛生総合会館14階 第4会議室	東京都港区芝5-35-2
長野	学科	学科・実技	上小トラック研修会館	上田市殿城 5 8 1 - 6
静岡	学科	学科・実技	静岡県トラック協会研修センター	静岡市葵区北2092-2
愛知	学科・実技	学科・実技	中部トラック総合サービスセンター	みよし市福谷町西ノ洞 21-127
愛媛(注)	学科・実技	学科・実技	愛媛県トラック協会	松山市井門町1081-1
福岡	学科	学科・実技	福岡県トラック協会筑豊緊急物資輸送センター	福岡県飯塚市平恒 169-1

（注）愛媛は、10月18日に学科のみ実施。実技は、別日に実施予定。

試験科目と合格基準

試験科目		試験内容の概要	配点	
			1 級	2 級
学科試験		荷役作業一般、関係法令及びフォークリットの走行・力学 についての基本的な知識 (計 50 問)	300 点	300 点
実技試験	点検試験	作業開始前点検（43 項目）の各項目のうち、不具合箇所を指摘し点検を行う。	100 点	200 点
	運転試験	所定の運転コースで、適切な走行、運搬、積卸し作業を行う。	600 点	

受検費用

- 1 級 ・ 学科試験受験手数料 5,400 円（税込）
 ・ 実技試験受験手数料 27,000 円（税込） 合計 32,400 円
- 2 級 ・ 学科試験受験手数料 5,400 円（税込）
 ・ 実技試験受験手数料 21,600 円（税込） 合計 27,000 円

※お申し込み後のキャンセル料等については、当該検定の規定によります。



検定についての問合せ先

陸上貨物運送事業労働災害防止協会 技術管理部

TEL 03-3455-3857 FAX 03-3453-7561

MAIL ginou-kentei@rikusai.or.jp

STOP！熱中症 クールワークキャンペーン 実施中

厚生労働省は、熱中症予防対策の徹底を図ることを目的として、関係省庁及び陸災防を含む関係団体との連携の下、「STOP!熱中症 クールワークキャンペーン」を実施しております。

本キャンペーンは、これまで各団体において個々に実施されていた取組について相互に連携を図り、一体的に推進することにより、事業場における熱中症防止に対する意識の向上及び責任体制の確立を含む対策の徹底を図ることを目的としています（取組期間：平成 29 年 5 月 1 日から 9 月 30 日）。

詳細につきましては、下記①厚生労働省ホームページ、②厚生労働省作成のリーフレットをご覧ください。

- ① <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116133.html>
 ② <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11200000-Roudoukijunkkyoku/shosai.pdf>

7 月から「第 12 次陸上貨物運送事業労働災害防止計画 目標達成取組強化期間」を実施中です！

陸災防では、7 月 1 日から 12 月 31 日まで「第 12 次陸上貨物運送事業労働災害防止計画 目標達成取組強化期間」を実施し、災防指導員の巡回指導をはじめとして様々な取組を実施中です。

各企業・事業場におかれましては、労働安全衛生関係法令を遵守することはもとより、職場の安全衛生管理体制を確立して適切に機能させるとともに、経営者と従業員が一致協力して自主的な安全衛生活動を継続的・効果的に展開いただきますようお願いいたします。

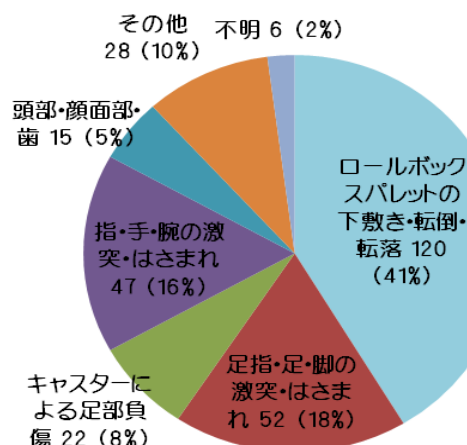
実施要綱➡http://www.rikusai.or.jp/public/katsudo/kyouchou/H29_12th/H29_12th.htm

ロールボックスパレット安全作業研修会のご案内

とても便利なロールボックスパレット（カゴ車）ですが、下敷きや手足の負傷による事故が多く発生しています。



ロールボックスパレットに
起因する災害の5パターン



- ◎ このため、ロールボックスパレットの安全作業に関するセミナーを、47 都道府県にて開催します（参加費：無料）。
- ◎ セミナーでは、安全な使用方法についてお示しするとともに、保護具の紹介もいたします。
- ◎ ロールボックスパレットを使用する事業所の方々のご参加をお待ちしています。
- ◎ 陸災防ホームページに日程、開催会場を掲載しますので、ご確認のうえ、各支部にお申し込みください。

ロールボックスパレット安全作業研修会

- 日 時**：平成 29 年 7 月以降順次開催
- 場 所**：47 都道府県（会場は陸災防ホームページでご確認ください）
- 定 員**：約 50 名（先着順）
- 参加費**：無料
- 対象者**：経営者、安全管理者、安全衛生推進者、作業責任者、ドライバー等作業者
- 内 容**：① ロールボックスパレットとは
 ② ロールボックスパレット起因による労働災害の実態と特徴
 ③ ロールボックスパレットによる災害事例
 ④ ロールボックスパレットの安全作業のポイント
- 講 師**：陸災防本部 安全管理士
- 申込方法**：申込書を陸災防各都道府県支部あて FAX してください。
- 修了証**：研修の参加者には、本研修を修了したことを証する書面をお渡しします。

過労死等防止・健康起因事故防止対策セミナー 開催のご案内

脳・心臓疾患の労災補償状況は、業種別に見ると、請求件数、支給決定件数ともに「運輸・郵便業」が最多であり、その中でも道路貨物運送業（業種別中分類）が最も多い状況にあります。また、事業用トラックによる交通事故は減少傾向にありますが、ドライバーの健康に起因する事故は増加傾向にあり、更なる労災防止対策として、過労死等防止・健康起因事故防止対策の推進が急務となっており、47都道府県にて「過労死等防止・健康起因事故防止対策セミナー」が実施されることとなりました。

本セミナーは、過労死等防止対策ならびに健康起因事故防止対策の具体的な取り組みについて、過労死事案の具体例などを踏まえながら専門家よりアドバイスを行います。是非多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

受講お申込みにつきましては、各都道府県トラック協会へご連絡ください。

主催 （公社）全日本トラック協会・各都道府県トラック協会
（独）労働者健康安全機構 産業保健総合支援センター
陸上貨物運送事業労働災害防止協会

平成29年度「過労死等防止・健康起因事故防止セミナー」開催日程

都道府県	開催日	会場	都道府県	開催日	会場
岩手	7月24日（月）	岩手県トラック協会総合研修会館	大阪	9月4日（月）	大阪府トラック総合会館
宮城	11月2日（木）	宮城県トラック協会	兵庫	10月13日（金）	兵庫県トラック総合会館
山形	9月22日（金）	山形国際交流プラザ（山形ビックウイング）	奈良	10月26日（木）	奈良県トラック会館
茨城	10月6日（金）	茨城県トラック総合会館	鳥取	9月20日（水）	鳥取県トラック協会
栃木	10月13日（金）	栃木県トラック協会	島根	9月21日（木）	松江市「くにびきメッセ」
群馬	10月24日（火）	群馬県トラック総合会館	岡山	10月11日（水）	岡山県トラック総合研修会館
千葉	9～12月に開催予定	千葉県トラック総合会館	広島	9月13日（水）	広島県トラック総合会館
東京	11月14日（火）	東京都トラック総合会館	山口	2月16日（金）	山口県トラック協会研修会館
神奈川	2月16日（金）	神奈川県トラック総合会館	徳島	1月30日（火）	徳島県トラック会館
新潟	1月29日（月）	新潟県トラック総合会館	香川	12月7日（木）	高松市「ホテルパールガーデン」
長野	1月17日（水）	長野県トラック会館	愛媛	11月頃に開催予定	愛媛県トラック総合サービスセンター
富山	8月30日（水）	富山県トラック会館	高知	9月22日（金）	高知市「サンピアセリーズ」
石川	9月15日（金）	石川県トラック会館	長崎	7月6日（木）	長崎県トラック協会研修会館
岐阜	2月5日（月）	羽島市「不二羽島文化センター」	熊本	9月6日（水）	熊本県トラック協会 旧館
静岡	8月30日（水）	静岡県トラック会館	大分	7月25日（火）	大分県トラック会館 大会議室
愛知	9月6日（水）	愛知県トラック会館	宮崎	10月23日（月）	宮崎県トラック協会総合研修会館
三重	8月28日（月）	三重県トラック協会北部輸送サービスセンター	鹿児島	10月26日（木）	鹿児島県トラック研修センター
滋賀	9月14日（木）	滋賀県トラック総合会館	沖縄	8月30日（水）	九州沖縄トラック研修会館

※記載のない都道府県につきましては開催日未定です。決定次第お知らせいたします。

陸運労災防止協会の表彰制度による小企業無災害記録事業場〔平成29年5月〕					
第5種(15年間)	・西部建材株式会社	山形県支部	第3種(7年間)	・有限会社神山運輸	埼玉県支部
	・マル元運輸有限会社	山形県支部		・有限会社須賀原運送本社営業所	岡山県支部
第4種(10年間)	・株式会社サンキュウ・トランスポート・東日本君津営業所	千葉県支部	第2種(5年間)	・安達運輸株式会社	福島県支部
	・株式会社此川運輸黒部輸送センター	富山県支部		・株式会社此川運輸本社営業所	富山県支部
	・繁屋運送株式会社本社営業所	岡山県支部	第1種(3年間)	・北港運輸株式会社横浜支店	神奈川県支部
	・株式会社トップ・ロジ	山形県支部		・北港運輸株式会社相模原支店	神奈川県支部
	・株式会社コスモ運輸	山形県支部		・北港運輸株式会社浜松センター	静岡県支部
	・株式会社ダイヤ運送	山形県支部		・北港運輸株式会社滋賀営業所	滋賀県支部
				・有限会社九州北港運輸本社営業所	福岡県支部

業種別労働災害発生状況

平成 29 年 6 月 7 日現在

業種	項目	死亡						死傷					
		平成29年1月～5月 [速報値]		平成28年1月～5月 [速報値]		前年比較		平成29年1月～5月 [速報値]		平成28年1月～5月 [速報値]		前年比較	
		死亡者数 (人)	構成比 (%)	死亡者数 (人)	構成比 (%)	増減数 (人)	増減率 (%)	死傷者数 (人)	構成比 (%)	死傷者数 (人)	構成比 (%)	増減数 (人)	増減率 (%)
全 産 業		328	100.0	320	100.0	8	2.5	37,225	100	36,537	100	688	1.9
製 造 業		77	23.5	68	21.3	9	13.2	8,557	23	8,542	23	15	0.2
鉱 業		5	1.5	3	0.9	2	66.7	77	0	72	0	5	6.9
建 設 業		101	30.8	101	31.6	0	0.0	4,736	13	4,739	13	-3	-0.1
交通運輸業		6	1.8	8	2.5	-2	-25.0	1,084	3	1,127	3	-43	-3.8
陸上貨物運送事業		40	12.2	32	10.0	8	25.0	4,777	13	4,578	13	199	4.3
港湾荷役業		3	0.9	4	1.3	-1	-25.0	113	0	96	0	17	17.7
林 業		16	4.9	12	3.8	4	33.3	461	1	572	2	-111	-19.4
農業、畜産・水産業		12	3.7	10	3.1	2	20.0	764	2	766	2	-2	-0.3
第三次産業		68	20.7	82	25.6	-14	-17.1	16,656	45	16,045	44	611	3.8

資料出所：厚生労働省

業種、事故の型別死亡災害発生状況（平成 29 年 1 月～5 月）

平成 29 年 6 月 7 日現在

業種	項目	合計	墜落・転落	転倒	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	はさまれ・巻き込まれ	交通事故（道路）	交通事故（その他）	その他
全 産 業		328	86	8	16	21	34	62	60	1	40
製 造 業		77	9	1	4	5	8	27	4	0	19
建 設 業		101	44	2	7	12	6	9	14	0	7
交通運輸業		6	0	0	1	1	0	0	3	0	1
そ の 他		104	26	4	2	2	16	20	20	1	13
陸上貨物運送事業		40	7	1	2	1	4	6	19	0	0
同上対前年増減		8	7	0	-2	-1	2	-1	3	0	0

業種、事故の型別死傷災害発生状況（平成 29 年 1 月～5 月）

平成 29 年 6 月 7 日現在

業種	項目	合計	墜落・転落	転倒	激突	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	はさまれ・巻き込まれ	交通事故（道路）	交通事故（その他）	動作の反動・無理な動作	その他
陸上貨物運送事業		4,777	1,380	810	350	254	140	243	553	294	4	666	83
同上対前年増減		199	37	5	-4	8	24	9	47	7	1	80	-15

（注）上記 2 表の右端の列の「その他」は、「墜落・転落」～「交通事故（その他）」以外をまとめたもの
詳細は、陸災防ホームページ <http://www.rikusai.or.jp> に掲載